

みなもとのよしいえこしか  
源 義家腰掛けの石

その昔、源 義家（別名 八幡太郎義家）が安倍の貞任、宗任征伐のおり、下小倉の地を通り掛かった時のことでした。一天にわかにかき曇り稲妻がはしり、すさまじい雷鳴が轟き、豪雨となりました。

「これは大変なことになったもんじゃない。」

と、辺りを見回すと近くに大きな自然石が目に入り、義家はその石に腰をおろし、雷が止むのを

待つことにしたのでした。するとどうしたのか、

たちまちのうち雷雨はあがり、空には晴れ間さえ見えはじめたではありませんか。東の方の空には虹がかかっており、すっかりもとのよい天気になってしまいました。

「やれやれ、ありがたや、この石のおかげでたすかったわい。」  
と、ほっとして、この地を去ったということでした。

この様子を一部始終見ていた村人が、

「何と不思議な石だなや？ お武家様が腰掛けたら、雷様が止んじまったぞ。」

と、目を丸くして驚きました。



源義家腰掛けの石

やがて、このことが当地の人々に広がり、この大きな自然石を雷神様と呼ぶようになり  
りました。その後、雷が鳴り始めると、

「雷神様、おねげいします。でけえ雷神様がこねえようにしてくれ。」

と、村人たちが石のまわりに集まりお供え物をし、お願いをすると雷はたちどころに止  
んでしまったということです。

またある時、日照りが続き農作物が枯れそうになりました。村人はいつものようにこ  
の石のまわりに集まり、お供え物をし、

「雷神様、おねげいします。日照りで作物が枯れそうじゃ、何とか雨を降らしてくれや。」  
と、石に泥を塗り、雨ごいをするとみるみるうちに空がかき曇り、雨が降ってきたとい  
います。そして、長雨になると今度は石を水できれいに洗い流し、

「なあ、雷神様、もう雨はたくさんだ。ありがとうよ。」

と、いつてお参りをすると、今まで降っていた雨が嘘のように止んでしまいました。

その後、ことあるごとに参拝者が多くなつたということです。そして、村人たちは  
天候異変で農作物に影響が出そうな時には、この石の周りに縄を張り、御幣を供え天気  
祭りをしたそうです。

現在この石は、西の内の民家屋敷内に移設されており、毎月一日にその家の家族が供  
え物をそえて祀っているとのこと。